

日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会

Injury Alert (傷害速報)

No. 125 キッチンで受傷した熱湯による体幹・四肢熱傷 事例1

事例	基本情報	年齢：1歳9か月 性別：男児 体重：11 kg 身長：91 cm
	家族構成	父, 母, 本児 (同胞なし)
	発達・既往歴	右停留精巣術後, その他特記事項なし
臨床診断名		左耳介・後頸部・背部・右下肢のⅡ度熱傷
医療費		入院 921,390 円
原因対象	対象名称	沸騰したスープ
	入手経路 使用状況	なし
発生状況	発生場所	自宅のキッチン
	周囲の人 周囲の環境	母親がキッチンで夕食の準備をしており, 児は母親の足元にくっついていて, 最近いやいや期で常に一緒にいないと泣きわめくとのことで, 普段から同じような状況だった. キッチンには居間と一続きの間取りであり, 乳幼児がキッチンに入ることができない防策はしていなかった.
	発生年月日	2021年9月X日(水) 午後5時50分頃
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	母親が児の夕食のスープ150 mL程度を鍋で熱していたが, 沸騰したのでコンロの火を止めた. 児が足元にいたため危険と思い鍋を移動させようとしたところ手元がすべり, 足元にいた児の背部から沸騰したスープがほぼ全量かかった. 母親がすぐに児の肌着を脱がせ, 浴室で冷水を1分ほどかけたあと, 自宅にあったイソジン軟膏を受傷部に塗布した. 父親は仕事で不在だったため近隣在住の母方叔父に連絡して車を出してもらい, 受傷30分後に近医クリニックを受診した. 重症度が高く高次医療機関の受診を指示され, 受傷1時間後に医療機関を受診した.
医療機関受診時以降の 治療経過 転帰		受診時(午後6時45分), バイタルサインに異常はなく, 左耳介・後頸部(図1)・背部(図2)・右下肢(図3)にⅡ度熱傷(体表面積15%程度)を認め, 外来で洗浄・デブリドマンと湿潤療法を行い入院した. 入院後は形成外科併診で創部処置を継続し, 創部の上皮化が進んだことを確認し入院15日目で退院した. 退院後は形成外科外来に通院予定となっている.
キーワード		キッチン, 広範囲熱傷



図1 左耳介, 後頸部の熱傷. 水疱はすでに破膜している.



図2 背部の熱傷. 水疱はすでに破膜している.



図3 右下肢の熱傷。水疱はすでに破膜している。

No. 125 キッチンで受傷した熱湯による顔面・頸部・四肢熱傷 事例2

事例	基本情報	年齢：2歳1か月 性別：女児 体重：13.0 kg 身長：80.5 cm
	家族構成	父，母，本児の3人家族
	発達・既往歴	特記事項なし
臨床診断名		顔面Ⅱ度熱傷，頸部Ⅱ度熱傷，左前腕Ⅱ度熱傷
医療費		入院 539,310円 外来 12,060円
原因対象	対象名称	鍋で沸騰させていた熱湯
	入手経路 使用状況	なし
発生状況	発生場所	自宅のキッチン（図4）
	周囲の人 周囲の環境	母は、キッチンで夕食の準備をしていた。2つあるコンロでパスタ、もやしを茹でていた。父は勤務先から帰宅し、本児と遊んでいたが、自転車のタイヤの空気を注入しに外に出た。本児は玄関まで父に付いて行ったが、父にテレビを見ておくように言われてリビングに戻ってきた。本児がリビングに戻ってきたことまでは、母は認識していた。
	発生年月日	2022年2月X日（金） 午後7時45分
	発生時の 詳しい様子 受診までの経緯	上記時刻頃、母がもやしを茹でていた熱湯を流しに捨てようとして取手のついた鍋を持って左向きに振り返ると、本児がおもちゃのピアノ椅子（15 cm程度の高さ）を持って流しの前に来て、その上に乗っていた。母の左肘が本児と接触した拍子に本児に向かって熱湯をこぼしてしまい、熱湯が本児の顔面、頸部、左前腕にかかった。鍋に入っていた熱湯は数百 mLだったが、どれくらいの量がかかったのかは不明であった。すぐに鍋を流しに置き、その流しで本児の顔を冷水で洗ったため残っていた熱湯の量も不明であった。その後、保冷剤で冷却していた。自宅の駐車場にいた父にすぐに電話し、救急要請した。午後8時7分に救急隊が到着した。
医療機関受診時 以降の治療経過 転帰	午後9時11分病着時、バイタルサインに異常を認めなかった。顔面、頸部、左前腕から手関節に熱傷を認めた。Ⅰ度からⅡ度熱傷であり、洗浄後に開放的湿潤療法を開始した。X+1日午前と同院の救急外来を再診し、顔面Ⅱ度熱傷の範囲拡大と眼瞼腫脹の増悪を認めた。自宅が遠方であったこともあり、同日入院とした。入院後は形成外科医による毎日の処置を継続し、X+8日目に退院した。経過良好であること、遠方在住であることを鑑み、退院後は自宅に近い中核病院の形成外科外来へ通院することとなった。	
キーワード	キッチン，顔面熱傷	

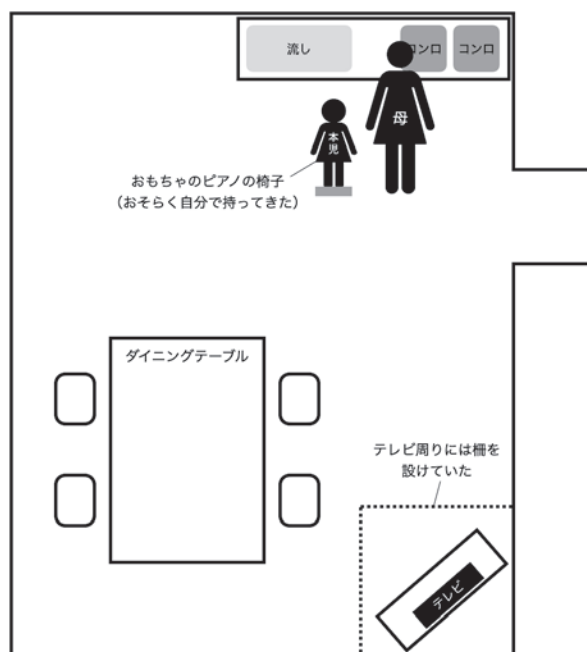


図4 キッチンとリビングの間取り図. テレビの周りには柵を設けていたが、キッチンとリビングの間には柵や敷居を設けてはなかった.



図5 顔面と頸部の熱傷. 水疱形成あり, 第II度熱傷と判断した.

【こどもの生活環境改善委員会からのコメント】

1. 小児の熱傷の多くは乳幼児の受傷であり, 長期にわたり整容面・機能面に障害を残す可能性がある. そのため, 本人及びその家族に対する心理的・社会的・経済的な影響が大きい外傷の一つである.
2. 小児の熱傷の多くは家庭内で発生している. 2013年の東京都生活文化局消費生活部生活安全課の調査によると, 乳幼児の熱傷の原因としては①食物・飲物, ②据え置き型調理器具, ③卓上調理器具, の順に多いと報告されている<sup>1)</sup>. それらのほとんどの場合で, 予防が可能であることが示唆されている<sup>2)</sup>.
3. キッチンや調理器具に関連する熱傷の予防については, 国内からは国民生活センターから報告がある. 2013年に「電気ケトルの転倒, 落下による熱傷」について, 2017年に「キッチングリルでの熱傷についての注意喚起」が報告されている. 2019年に「炊飯器・ポット・ケトル・加湿器(スチーム式)など家電から出る蒸気による熱傷について注意喚起」を促す記事が公表され, 2021年にも「蒸気を出す家電を使用する際の注意喚起」が公表されている<sup>3)-6)</sup>. 2022年に政府広報オンラインでは家庭内での乳幼児の熱傷について紹介され<sup>7)</sup>, Safe Kids Japan ホームページでは「子どものやけどを予防するために」という資料が公開されており安全対策がされた製品の紹介や, 危険なものは子どもの手の届かない場所に置くことが推奨されている<sup>8)</sup>.
4. 海外では2018年に更新された熱傷初期診療コース(Advanced Burn Life Support Course)プロバイダマニュアルによると,
  - ・米国では火災や熱傷は家庭内における不慮の死亡の主な原因の一つである.
  - ・5歳未満の小児では特に家庭内での火災での死傷リスクが高い.
  - ・ほぼ全ての小児の熱傷は予防可能である.
 と述べられている<sup>9)</sup>.
5. 近年の日本の住宅では, キッチンがリビングとオープンな空間になっている構造が多い. そのため傷害予防のポイントは調理中に子どもがキッチンに入ってくるのができない環境造りが重要である.



図6 ハーフストレーナー付パスタポット. 簡単に湯切りができるため, 熱湯の入った鍋を持ち上げなくて良い.

#### <乳幼児期>

ベビーゲートのような柵を設置する方法がある. ベビーゲートは, 子どもが簡単にそのロックを外すことができない, 大人が簡単に開け閉めできるものが良い. 壁付け型のキッチンやアイランド型オープンキッチンでは, ベビーゲートの取り付けができないこともあるため, その場合はケージ付きの遊び場を作り調理中はそこで遊ばせるのも一案である.

#### <幼児期以降>

保護者と一緒に調理をすることに興味を持つ年齢となる. 以下のような調理中のルールを作り日頃から習慣づけてみると良いかもしれない.

- ・高温の調理器具や飲食物の調理中には近づかない
- ・高温になった鍋・フライパンを持つ際はミトンを使用する
- ・熱い食べ物・飲み物は少し冷ましてから運ぶ

米国熱傷学会 (American Burn Association) ホームページ<sup>10)</sup>上の熱傷予防の情報を参考に作成した.

6. 調理器具を工夫することも重要である. 例えば蕎麦やパスタを茹でる際にパスタポット (図6) を使うとよい. 茹でた熱湯の入った重たい鍋を持ち上げることなく, 簡単に湯切りをすることができる.
7. 最後に, 熱傷を負った場合に
  - ・熱傷部位を流水で20分程度冷やす (ただし低体温にならないよう注意)
  - ・広範囲の熱傷, 顔にかかる熱傷の場合は救急車を呼ぶか, すぐ病院に行く
  - ・関節部や外陰部にかかる熱傷は病院で診てもらう
 などの初期対応を知っておくことも忘れてはならない.

#### 参考文献

- 1) 東京都生活文化局消費生活部生活安全課. 乳幼児のやけど事故防止ガイド.  
<https://www.shouhiseikatu.metro.tokyo.jp/anken/publication/documents/308.pdf>, (参照 2022-10-9)
- 2) 鶴和美穂, 井上信明, 高林見和, 他. 小児専門病院を受診した乳幼児の熱傷における受傷機転. 日児会誌 2013; 117: 1492-1496.
- 3) 独立行政法人国民生活センター. 電気ケトルの転倒・落下によるやけどに注意!  
<https://www.kokusen.go.jp/mimamori/pdf/support60.pdf>, (参照 2022-10-9)
- 4) 独立行政法人国民生活センター. コンロのグリルでの子どものやけどに注意~使用後でもグリル窓は

高温です～.

[https://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20170921\\_1.pdf](https://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20170921_1.pdf), (参照 2022-10-9)

- 5) 独立行政法人国民生活センター. 家電から出る蒸気による乳幼児のやけどにご注意!～炊飯器, ポット, ケトル, 加湿器 (スチーム式) について～.

[https://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20210902\\_3.pdf](https://www.kokusen.go.jp/pdf/n-20210902_3.pdf), (参照 2022-10-9)

- 6) 独立行政法人国民生活センター. 蒸気が出る家電でのやけどに注意!

<https://www.kokusen.go.jp/mimamori/pdf/support175.pdf>, (参照 2022-10-9)

- 7) 政府広報オンライン. 家の中の思わぬ危険. 乳幼児のやけど事故にご注意を!

<https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201802/1.html>, (参照 2022-10-9)

- 8) Safe Kids Worldwide Japan. 子どものやけどを予防するために.

<https://safekidsjapan.org/wp-content/uploads/2016/12/子どものやけどを予防するために-1.pdf>, (参照 2022-10-9)

- 9) Advanced Burn Life Support Course PROVIDER MANUAL 2018 UPDATE

- 10) American Burn Association Prevention Resources.

<https://ameriburn.org/advocacy-and-prevention/prevention-resources/#1642704695834-cb94469a-f40d>, (参照 2022-10-9)

---

**[投稿のお願い]** 重症度が高い傷害を繰り返さないために、傷害の発生状況をできる限り正確に記載して投稿してください。コメントや考察の必要はありません。

投稿様式は学会のホームページ (<http://www.jpeds.or.jp>) の会員専用ページからダウンロードして、こどもの生活環境改善委員会に郵送、または専用 E-mail アドレス ([injury@joy.ocn.ne.jp](mailto:injury@joy.ocn.ne.jp)) にお送りください。

投稿先：〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目1番地5号 水道橋外堀通ビル4F  
日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会「傷害速報」係

### 傷害速報 (Injury Alert) 類似事例の記載について

こどもの生活環境改善委員会では、今までに125編の傷害速報(Injury Alert)を学会誌と日本小児科学会ホームページに掲載し、同じ傷害を繰り返さないために傷害予防を呼びかけて参りました。しかし、同じような傷害の発生が後を絶たず、学会誌に掲載された傷害と同じ例を経験したなどのコメントが多くあります。

同じ傷害が起こっているという事実は「傷害予防」のためには重要な情報です。同じ傷害が頻発している事実を公的に発表するため、ホームページ上にて「類似事例」を掲載することにいたしました。

つきましては、掲載された傷害速報の事例と同じような例を経験された際は、類似事例としてご投稿ください。

### 【投稿方法】

傷害発生日時、児の年齢、性、簡単な傷害の経緯等を簡潔な文章(2～3行)、もしくは類似事例用投稿フォームにまとめて下記のE-mailアドレス宛てに直接お送りください。また、ご連絡先もご明記ください。

事例は日本小児科学会の一般向けホームページに掲載されます。(学会誌には掲載されません)

〒112-0004 東京都文京区後楽1丁目1番地5号 水道橋外堀通ビル4F

日本小児科学会こどもの生活環境改善委員会「傷害速報」係

専用 E-mail アドレス：[injury@joy.ocn.ne.jp](mailto:injury@joy.ocn.ne.jp)